

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（3学期）

〔川原小学校〕

1 教科・単元名等

国語： 3年 「 コンピュータのローマ字入力 」

〔第2時／全2時間〕 の実践

2 本時の授業と家庭学習とを連動させる意図

ローマ字でコンピュータに文字を入力する学習をした。その学習を生かし、毎日書いている日記をタブレットを使い、ロイロノートに書かせることによって定着を図らせる。

（ 既習内容活用 型 ）

3 授業(家庭学習の指示) (3月3日(金) 5校時)

- 1 週末の日記をロイロノートのシートに入力する。
- 2 入力の方法について確認する。
 - ・必ずローマ字入力すること。
 - ・日付や曜日などいつもの日記と同じように書くこと。
- 3 月曜日の朝、登校してから提出箱に提出すること。

4 家庭学習の実際

三月五日 日曜日天気 ★
題名 ローストビーフ丼
今日の夜にローストビーフ丼を食べました。二月に宮崎に行って、滝を見たあとにお店によってローストビーフを買いました。最初お母さんが「ホットケを買ってみるか」と言ったので私はホットケを生だと思っていました。家に帰って食べてみるととても美味しかったです。また、食べたいと思います。私の大好きな食べ方は、ご飯を入れてローストビーフを入れて、卵を入れて、プラスチックペーパーを入れて食べるのがおいしかったです。

三月三日 金曜日
今日昼休みに外で縄跳びをしました。体育の時にはやぶさが出来たので昼休みにもはやぶさの練習をしました。2回出来ました。はやぶさができて嬉しかったです。〇〇ちゃんも縄跳びをしました。〇〇ちゃんもはやぶさが飛べていました。途中で〇〇ちゃんが高い一輪車に乗っていました。すごかったです。私は一輪車は乗れるけど、高い一輪車には乗れません。今日は、日記を長く書いています。なぜかというタブレットだし時間も少し長くかけるからです。

三月三日 金曜日 天気(晴れ)
題名(ひな祭り)
○今日、ひな祭りでした。今日になるまで忘れてました。ひな祭りをする事はないけどちらし寿司は食べたいです。

- ・タブレットの持ち帰りや宿題についてのお知らせを学級通信でおこない協力をお願いした。
- ・月曜日の朝、提出されたものについては、コメントをつけて返却した。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（1学期）

〔霧島市立安良小学校〕

1 教科・単元名等

国語科：5年（知的障害特別支援学級） 「古典の世界（一）」

〔第3時／全4時間〕の実践

2 本時の授業と家庭学習とを連動させる意図

- ・ 古典の読み物教材を通して、古典学習への関心をもたせる。
- ・ 繰り返し家庭でも音読することで、古文に慣れ親しむことができる。
- ・ タブレットで音読を動画撮影し、自分の様子を振り返ることで、音読をより深めるようにする。
(「授業連動型家庭学習」【B】深化・発展型)

3 家庭学習の指示内容（7月8日（金）1校時）

家庭学習

- 「平家物語」, 「竹取物語」の音読の様子をタブレットで録画しながら練習する。
(この時間までに、毎日の音読練習を行い、古典の読み方や意味を理解させておく。)
- タブレットの正しい使い方と、録画方法を確認する。
(保護者の方にもお知らせして、見届けをお願いします。)

4 授業の実際（7月11日（月）1校時）

導入場面

- 1 既習事項を振り返る。
 - ・ 言葉の響きやリズムに気を付けながら、「平家物語」「竹取物語」を読む。
- 2 学習課題を確かめる。

動画を見て、もっと工夫できるところを見つけてみよう。

展開場面

- 3 家で録画した音読の様子を確認し、良かった点、工夫したい点を発表する。

※家庭学習より

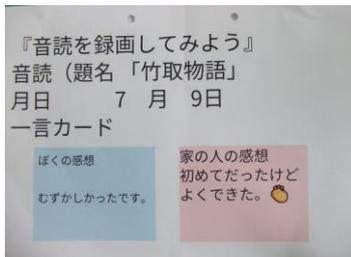
- 良かった点
- ・ 「難しい読み方だったけど、最後まで読めた。」
- 工夫したい点
- ・ 「もっと声を大きくしなきゃ聞こえないなあ。」
 - ・ 「覚えているところは前を見て話してみようかな。」

◎ 音読をしている自分を見ながら振り返ることで、家庭学習の音読をより深めることができた。

終末場面

- 4 音読の良かった点、工夫した点をロイロノートにまとめる。
 - ・ 「次は、家族にも感想を聞いてみたいな。」

◎ 日頃なかなか聞きなれない、古典の読み方に抵抗があったが、毎日の音読と動画で振り返ることができたことで、古典学習への意欲につながった。



「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（1学期）

〔霧島市立陵南中学校〕

1 教科・単元名等

英語科：中学3年 既習内容の復習

2 本時の授業と家庭学習とを連動させる意図

- ・ 家庭学習で既習内容を復習することで、授業では、学んだことが確実に身に付いているか確認する。また、タブレット持ち帰りに向けて動作環境を確認する。
(「授業連動型家庭学習」【C】既習内容活用型)

3 家庭学習の指示内容（7月13日（水）5校時）

家庭学習

- ・ タブレット持ち帰りに向けての注意点を説明し、家庭のWi-fi 機器との接続方法について確認する。
- ・ 自分に合ったレベルでNavimaに取り組む。
- ・ 活用してみたの感想をアンケート用紙にまとめる。

4 授業の実際（7月14日（木）3校時）

導入場面

- 1 実際にタブレットを持ち帰って学習した感想を伝え合う。

※生徒の声、アンケートより

(良かったこと・成果がみられたこと)

- ・ 自分専用のスマホを持っていないので、自宅でタブレットを使って学習できたのが良かった。
- ・ 自宅で好きなだけNavimaができて良かった。
- ・ 通信が早くスムーズにできた。

(良かったこと・成果がみられたこと)

- ・ 充電の減りが早かった。
- ・ 荷物が多くなった。重い。
- ・ 画面を割らないか心配になった。

持ち帰って来た感想を確認し、教師のNavima管理画面で取り組み状況を確認し、定着していない部分を補充する学習課題を設定した。

- 2 学習課題を確かめる。

〈学習課題〉

自分が間違った問題について、もう一度間違った問題に取り組もう。

- ◎ タブレット持ち帰りをさせてみて、スムーズに使用ができることを確認できた。

展開場面

- 3 自分に合ったレベルやペースでNavimaに取り組ませる。

※ 家庭学習より

(教師はNavima管理画面でそれぞれの取組状況を確認する。)

- 4 自宅学習で補充した方がいい問題について個人で設定させる。

- ◎ 普段の授業でNavimaを扱うことはしていないので、朝自習や昼休みの個々の取組状況について把握し、頑張っている生徒を称賛することができた。
- ◎ 家庭学習でリスニングの学習を設定することができた。

終末場面

- 5 本時の振り返り
- 6 これからの学習の予告
今後はタブレットを使用して英検IBAに向けての取組を進めていく。

「授業連動型家庭学習」による授業改善事例（2学期）

〔霧島市立陵南中学校〕

1 教科・単元名等

国語科：中学2年 5 古典に学ぶ 漢詩の世界

2 本時の授業と家庭学習とを連動させる意図

- ・ タブレットの録音機能を使って、音読・暗唱の音声を家庭学習の取組として提出させることで、丁寧に古文や漢文の読みの復習に取り組み、内容の理解を深め作品への興味へとつなげていく。「授業連動型家庭学習」【C】既習内容活用型

3 家庭学習の指示内容（11月7日（月）3校時）

家庭学習

- ・ 自分の選んだ漢詩の訓読文を音読して、ロイロノートで提出する。
- ・ 漢詩の表現やリズムに注して音読する。
- ・ 家庭のWi-fi 機器の有無があるので、録音しておいて登校してからロイロノートで提出してもよいということにした。

4 授業の実際（11月7日（月）3校時）

導入場面

- 1 三編の漢詩の書き下し文を音読する。
※範読に続いて、書き下し文（もしくは訓読文）を一斉読み。
- 2 本時の学習目標を確認する。
漢詩の表現から、作者の心情を想像しよう。

終末場面

- 6 訓読文を音読する。
- 7 自分の選んだ漢詩（訓読文）の音読を本日の家庭学習とすることを指示する。

展開場面

- 3 作者の状況をとらえる。
- 4 作者の思いが伝わる表現を抜き出す。
- 5 心情を想像し、文章に書く。
① 3編の詩から一つ選び、50字程度で書く。→グループで発表する。
② ロイロノートのカードに書き、全体で共有する。
③ 短い言葉で、3編の作者の心情をまとめる。

- ◎前時に漢文や漢詩の基礎知識を学び、漢文（書き下し文）のリズムに慣れるように音読に取り組んだ。その次のステップとして、訓読文を目で追いながら範読を聞き、音読に取り組ませた。
- ◎音声を家庭学習としたことで、集中してくり返し練習に取り組み、録音したものをまた自分で聞いてさらに改善しようとする姿も見られた。

- ◎ロイロノートの使い方に生徒が慣れてきたので、考えを共有しやすくなった。色付きのカードで視覚的にも全体の意見の傾向が分かりやすい。
- ◎ここでとらえた作者の心情を生かして、漢文の音読に取り組むことへとつなげることができた。